

＜ 今日の説教のポイント 出エジプト記 17章 8～16節 ＞

1 (8-9) 聖書は戦争を是とするのか？ アマレクが何をしたかに注目。

神様は戦うことを良しとされているのかと思う個所です。しかしなぜイスラエルは戦ったのかのでしょうか。「アマレクが…来てイスラエルと戦った」(1)とありますが、申命記 25:18 には、「あなたがエジプトを出たとき、旅路でアマレクがしたことを思い起こしなさい。彼は道であなたと出会い、あなたが疲れきっているとき、あなたのしんがりにはいた落伍者をすべて攻め滅ぼし、神を畏れることがなかった」(25:18)とあります。アマレクはこの後、ギデオン、サウル、ダビデの時代にもイスラエルを苦しめます。よってアマレクはあらゆる時代の迫害者を代表しています。聖書の神様は平和を愛される神様ですが、悪をなす者を放っておかれる神でもないのです(エレミヤ書 18:8-9)。

2 (10-13) 興味深い奇跡。ここから何を聞き取るべきか？

興味深い場面です。手を上げるのは神様に祈りを捧げる時の姿勢ですから、モーセが丘の頂上に上って神様に祈っているのを同胞が見て、「自分たちには神様がついて下さっているのだ」と励まされたのです。アロンとフルが支えたことは主を信じる者が協力し合って取り組むことの大切さを教えられます。ですから、手を上げたら神様の力が発揮されるといった機械的なことではなく、この人たち全てが出エジプトをなして下さった主(ヤハウエ)なる神様を信じる信仰の下で一つとなって取り組んだことの大切さを教えられるのです。

3 (14-16) アマレクに救いはないのか？ 新約聖書を含めて考えると。

「わたしは、アマレクの記憶を天の下から完全にぬぐい去る」(14)は、確かにアマレクに対する神様の裁きの厳しさを表しているでしょう。しかし、旧約聖書に留まらず新約聖書も含めて考えるとどうなるでしょうか？ 主イエスは一人も滅びないために悔い改めることを呼びかけるために来て、十字架について下さいました。その教えは旧約聖書時代から始まっています(エレミヤ書 18:7)。「剣をさやに納めなさい。剣を取る者は皆、剣で滅びる」(マタイ 26:52)とも言われました。これも旧約聖書から出ている教えです(イザヤ書 2:1-5)。アマレクはダビデ以後出て来ませんが、「主は代々アマレクと戦われる」(16)とあります。アマレクは私たちであり、誰の内にも潜むアマレクを神様がイエス・キリストによって戦って消し去って下さったことを思いに刻むべきなのです。